

論文または
報告と記載

1字あき

ゴシック, 14pt

上辺マージン 25m

論文

日本コンクリート工学年次大会 2007 仙台大会における和文原稿の書式例と特に注意する点

左右のマージン 21mm

2行目は、4文字目から書き始める

南谷 伝蔵^{*1}・乗鞍 英鷹^{*2}・鞍乗 鷹英^{*3}

2字あき

2字あき

見出しのみゴシック

要旨: 論文を作成する上で、特に注意していただきたいレイアウトやフォントについて記述しています。句読点はカンマ「,」と句点「。」を使用する。要旨は4~7行、キーワードは1行以内とする。「要旨:」「キーワード:」の見出しは、ゴシック体を使用する。図・表・写真のタイトルならびに本文中に引用する場合のフォントは、ゴシック体(和文)・Times New Romanの太文字(英文)を使用する。参考文献のフォントの大きさは、本文と同じ10.5ptを使用する。なお、詳細については執筆要領をご確認ください。

中黒点「・」で区切る

キーワード: 定着鉄筋, 載荷速度, ひび割れ

句読点はカンマ「,」と句点「。」を使用

各章の上側は1行あき

カンマ「,」で区切り、1行以内とする

1. はじめに

原稿は、A4サイズ横書き40行×2段組、余白は上25mm、下20mm、左22mm、右22mmに指定して作成する。フォントの大きさは10.5pt、句読点はカンマ「,」と句点「。」を使用すること。

各章の上側は1行あき

2. 原稿の書式について

2.1 題目・著者名・要旨・キーワード

(1) 論文・報告の種別と題目

論文・報告の種別を第1ページ1行目に左寄せで記入し、その後1文字空けて題目を記載する。題目が1行に収まらない場合は、2行目の左から4文字目から続きを書き始めること。

(2) 要旨およびキーワード

要旨とキーワードは1段組とし、見出しの「要旨:」「キーワード:」のみゴシック体で記載する。このとき、左右両端を2文字ずつ空ける。

2.2 章・節・項の見出しについて

各章の見出しの上側は1行あける。章、節の見出しは左端から、項の見出しは1文字空けてから書き出す。「章・節・項」の見出しのフォント種類はゴシック体とすること。

3. 数式・図表について

3.1 数式

極力簡潔にまとめ、式は3文字空けてから書き始め、右寄せとする。

$$y = a \cdot x^2 + b \cdot x + c \quad (1)$$

3.2 図・表・写真について

(1) タイトル

図・表・写真のタイトル、および文章中に引用する場合のフォント種類はゴシック体(図-1)または太文字の英文(Fig.1)で統一すること。

図・表・写真と本文との間は1行以上あけ

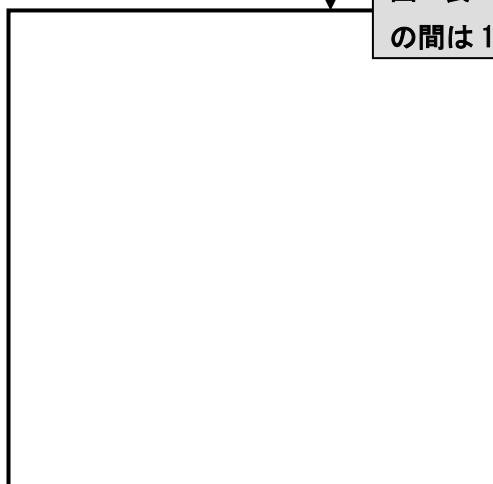


図-1 または Fig.1

2段組・21字・40行

*1 城北大学 工学部土木工学科助教授 工博 (正会員)

*2 東西建設(株) 建設事業本部設計課長 工修 (正会員)

*3 南北コンサルタント(株) 第一設計部 (正会員)

実線を引く

和文タイトルはゴシック体、
英文タイトルは Times New Roman の太文字

下辺マージン 20m

章・節・項の見出しはゴシック

表のタイトルは表の上に、図・写真の
タイトルは下に記入する

和文タイトルはゴシック体（英文タイ
トルは Times New Roman の太文字）

表-1 表の作成例

組骨材の 最大寸法 (mm)	スランブ (cm)	水セメン ト比 (%)	空気量 (%)	細骨材率 (%)	単位量 (kg/m ³)				
					水 <i>W</i>	セメント <i>C</i>	細骨材 <i>S</i>	粗骨材 <i>G</i>	混和剤 <i>A</i>
20	8	47	4	35	150	319	650	1217	0.798
30	8	44	4	34	152	334	636	1214	0.834
40	8	44	4	34	153	348	621	1210	0.870

(表の罫線の太さは 0.5pt 以上とする)

章・節・項の見出しはゴシック



図・表・写真と本文との間は 1 行以上あき

4. 参考文献について

4.1 参考文献

参考文献は、投稿時に既発表のものに限る。引用したり、参考とした文献名は、使用順に 1), 2) のように番号をふり、「結論」あるいは「まとめ」の後にゴシック体（フォントは本文の章、節、項の見出しと同じとする）の「参考文献」を表示した後、まとめて掲げること。文字の大きさは、10.5 ポイントとする。

文献番号は、本文中または引用した図・表・写真のタイトルの最後に、上付数字で^{1),2),3)}・・・のように明記しておくこと。

4.2 記載方法

(1) 論文等の場合

著者名：題名、誌名、Vol., No., 掲載ページ、発行年月の順とする。

(2) 単行本の場合

著（編）者名：書名、発行所名、掲載ページ、発行年月の順とする。

(3) 著者名

和文文献の著者名は必ずフルネームを記す。連名者が多い場合には、筆頭著者以外を「ほか」と省略してもよい。

欧文文献の著者名は、姓を先に記し、名はカンマの後にイニシャルで示す。連名者が多い場合には、筆頭著者以外を「et al.」として省略してもよい。

(4) 発行年月

和文文献の場合、西暦に統一して、1988.11, 1991.2 のように記す。欧文文献では、Nov.1988, Feb.1991 のように記す。

ゴシック, 10.5pt

参考文献（記載例）

- 1) 小林一輔, 魚本健人, 嶋 文雄: コンクリート混和材としての高炉水砕スラグ粉末の品質がコンクリートの圧縮強度ならびに乾燥収縮に及ぼす影響, コンクリート工学, Vol.17, No.5, pp.87-95, 1979.5
- 2) 森田司郎ほか: RC 外部柱・梁接合部の耐力と変形性状, コンクリート工学年次論文報告集, Vol.9, No.2, pp.175-180, 1987.6
- 3) 岡田 清, 六車 熙編: コンクリート・ハンドブック, 朝倉書店, 1981
- 4) Malhotra, V. M.: Superplasticized Fly Ash Concrete for Structural Applications, Concrete International, Vol.8, No.12, pp.28-31, Dec.1986
- 5) Collins, M. P. and Mitchell, D.: Shear and Torsion Design of Prestressed and Non-Prestressed Concrete Beams, PCI Journal, Vol.25, No.5, pp.32-100, Sep./Oct.1980
- 6) コンクリート工学年次大会投稿画面 FAQ 参照 : <http://www.jci-net.jp/rally/2006/denshi/index.htm>

文字の大きさは 10.5pt